

現代福祉学部

【2024年度大学評価総評】

現代福祉学部は、中期目標において特に学部の教育理念の周知を深めるべく在学生向けとともに外部への発信に力を入れておりその継続した取り組みは大いに評価でき今後も期待したい。昨年度の達成状況報告書全般については各評価項目・基準に関する達成指標への取り組みでは9項目中3項目で「S」評価とされ全体的な質的保証を担保できた点は大いに評価できる。特に、評価の高い「教育課程・学習成果」では、学部での福祉系、地域系、心理系の3領域を生かした総合的かつ専門的な学びを実現すべく、2年目の新カリキュラムの先年よりさらに踏み込んだ目標設定に意欲的に取り組む姿勢がうかがえ特筆に値する。ここでは、学部の優れた魅力でもある各実習科目にも関連し国内における関連諸機関との連携のみならず国際的な活動も視野に入れたカリキュラムの検討等とそれに付随した下位の達成必要項目も明記され今年度以降の有言実行に大いに期待したい。学習成果を把握するための方法として1年生の基礎演習における基礎ゼミコンペにおいて、最終審査員として外部委員を招く等の取り組みも評価できる。また、「学生の受け入れ」も特に評価が高く、学部の教育理念に基づく多様な入試の在り方を構築すべく、在学生の入試経路別の学習成果把握の検討、指定校の見直しとともに関連情報発信についてさらに取り組みを充実させている姿勢は特筆に値する。総じて、本学部が真摯に掲げる幅広い福祉の視野をもって社会に貢献できる福祉マインドを身につけた人材養成を念頭とした教育目標の実現に今後とも大いに期待したい。

大学基準協会の第4期大学基準に基づいた評価項目の充足状況の確認

2024年度自己点検・評価シートに記載された
I 現状分析を確認

すべての評価項目で「はい」が選択されており、充足していることが確認できた。

【2024年度自己点検・評価結果】

I 現状分析

基準1 理念・目的

1.1 大学の理念・目的を適切に設定すること。また、それを踏まえ、学部及び研究科の目的を適切に設定し、公表していること。

1.1①学部（学科）ごとに、大学が掲げる理念を踏まえ、教育研究活動等の諸活動を方向付ける人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）を明らかにしていますか。	はい
1.1②学部（学科）ごとに、人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）を学則又はこれに準ずる規則等に明示し、かつ教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> 『現代福祉学部履修の手引き』 法政大学現代福祉学部ホームページ (URL:https://www.hosei.ac.jp/gendai Fukushi/) 	

基準2 内部質保証

2.1 内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。

2.1①学部において、学部長及び教授会・委員会等の役割や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。	はい
2.1②学部において、質保証委員会を設置し、自己点検評価結果を活用して改善・向上に取り組んでいますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> 現代福祉学部教授会内規 学部内委員会委員一覧 	

基準3 教育研究組織

部局による自己点検・評価は実施しない

基準4 教育・学習

(1) 教育課程・教育内容

4.1 達成すべき学習成果を明確にし、教育・学習の基本的なあり方を示していること。

4.1①授与する学位ごとに、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学習成果を明らかにしていますか。	はい
4.1②授与する学位ごとに、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）において、学習成果を達成するために必要な教育課程の編成（教育課程の体系、教育内容）・実施（教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等）方針を明確にしていますか。	はい
4.1③また、カリキュラム・ポリシーにおいて、学習成果を達成するために必要な教育課程及び教育・学習の方法を明確にしていますか。	はい
4.1④上記の学習成果は授与する学位にふさわしいですか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・法政大学ホームページ ディプロマポリシー (URL: https://www.hosei.ac.jp/gendaifukushi/shokai/policy/diploma/) ・法政大学ホームページ カリキュラムポリシー (URL: https://www.hosei.ac.jp/gendaifukushi/shokai/policy/curriculum/) 	

4.2 学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。

4.2①授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目を開講していますか。	はい
4.2②各授業科目の位置づけ（主要授業科目の類別等）と到達目標の明確化をしていますか。	はい
4.2③「法政大学学則」第23条（単位）に基づいた単位設定を行っていますか。	はい
4.2④学生の学習時間の考慮とそれを踏まえた授業期間及び単位の設定を行っていますか。	はい
4.2⑤学習の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当及び学びの過程の可視化を行っていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・現代福祉学部 履修の手引き ・履修ガイダンス 配付資料 <ul style="list-style-type: none"> 新1年生ガイダンス（両学科共通） 福祉コミュニティ学科新2年生ガイダンス 臨床心理学科新2年生ガイダンス 新3年生ガイダンス（両学科共通） 新4年生ガイダンス（両学科共通） SSI 新入生ガイダンス（両学科共通） 留学生新入生ガイダンス（両学科共通） ・法政大学ホームページ ガイダンス資料 (URL: https://www.hosei.ac.jp/gendaifukushi/important/article-20240215102348/) ・履修相談会開催案内 ・履修相談会ラーニングサポーターおよび担当教員への通知文書 ・シラバス ・シラバス作成ガイドライン ・シラバス第三者確認用関連文書・資料 	

(2) 教育方法・学習方法

4.3 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。

4.3①「法政大学学則」第22条の2（履修科目の登録の上限）に基づき、1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。	はい
4.3②それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業たりの学生数が配慮されていますか。	はい
4.3③授業形態、授業方法が学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果及びカリキュラム・ポリシーに応じたものであり、期待された効果が得られていますか。	はい
4.3④ICTを利用した遠隔授業は「2023年度授業実施方針について」に沿って、適した授業科目に用いられていますか。また、効果的な授業となるような工夫を講じ、期待された効果が得られていますか。	はい
4.3⑤学習状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応を行っていますか。	はい
4.3⑥単位の実質化（単位制度の趣旨に沿った学習内容、学習時間の確保）を図る措置を行っていますか。	はい
4.3⑦シラバスの作成と活用をしていますか、また学生が授業の内容や目的を理解し、効果的に学習を進めるために十分な内容になっていますか。	はい
4.3⑧授業の履修に関する指導、学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認、授業外学習に資するフィードバック等の措置を行っていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・現代福祉学部 履修の手引き ・履修ガイダンス 配付資料 <ul style="list-style-type: none"> 新1年生ガイダンス（両学科共通） 福祉コミュニティ学科新2年生ガイダンス 臨床心理学科新2年生ガイダンス 新3年生ガイダンス（両学科共通） 新4年生ガイダンス（両学科共通） SSI 新入生ガイダンス（両学科共通） 留学生新入生ガイダンス（両学科共通） ・法政大学ホームページ ガイダンス資料 (URL : https://www.hosei.ac.jp/gendaifukushi/important/article-20240215102348/) ・履修相談会開催案内 ・履修相談会ラーニングサポーターおよび担当教員への通知文書 ・シラバス ・シラバス作成ガイドライン ・シラバス第三者確認用関連文書・資料 ・成績不振学生等への対応基準および対応報告書 ・受講者名簿 ・語学のクラス編成通知文書 ・専門演習 IA・IB 選考会案内および担当教員への通知文書 ・授業改善アンケート結果 ・大学評価室による学生調査結果 ・学生モニタリング調査の報告（執行部会議資料） ・教授会議事録 ・教務委員会資料 ・教授会配付資料（諸アンケートに関する学部長会議報告） ・大学評価室による学生調査結果（授業改善アンケート学部基本集計・全学集計結果報告書） 	

4.4 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っていること。

4.4①成績評価及び単位認定を客観的かつ厳格で、公正、公平に実施していますか。	はい
4.4②成績評価及び単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）を学生に明示していますか。	はい
4.4③「法政大学学則」別表(10)「認定単位の上限」に基づき、既修得単位などの適切な認定を行っていますか。	はい

4.4④「法政大学学則」第17条（卒業所要単位）に基づき卒業・修了の要件を明確にし、刊行物、ホームページ等のいずれの方法によっても、予め学生に明示していますか。	はい
4.4⑤学位授与における実施手続及び体制が明確になっていますか。	はい
4.4⑥ディプロマ・ポリシーに則して、適切に学位を授与していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・現代福祉学部 履修の手引き ・履修ガイダンス 配付資料 <ul style="list-style-type: none"> 新1年生ガイダンス（両学科共通） 福祉コミュニティ学科新2年生ガイダンス 臨床心理学科新2年生ガイダンス 新3年生ガイダンス（両学科共通） 新4年生ガイダンス（両学科共通） SSI 新入生ガイダンス（両学科共通） 留学生新入生ガイダンス（両学科共通） ・法政大学ホームページ ガイダンス資料 (URL : https://www.hosei.ac.jp/gendaifukushi/important/article-20240215102348/) ・シラバス ・シラバス作成ガイドライン ・現代福祉学部出講案内（成績評価について、成績評価「S」の評価割合について） ・現代福祉学部 試験について (URL : https://www.hosei.ac.jp/gendaifukushi/important/article-20231124124409/) ・現代福祉学部 成績について (URL : https://www.hosei.ac.jp/gendaifukushi/important/article-20231209110424/) ・法政大学ホームページ 成績評価について (URL : https://www.hosei.ac.jp/campuslife/guide/jugyo/risyu_seiseki/seiseki/) ・成績調査願 ・成績分布（GPA・GPCA 集計資料） ・授業改善アンケート結果 ・大学評価室による学生調査結果 ・学生モニタリング調査の報告（執行部会議資料） ・ソーシャルワーク実習・精神保健ソーシャルワーク実習 実習の手引きおよび報告書 ・心理実習の手引きおよび報告書 ・基礎演習Ⅰのクラス間共通プログラムに関するメモ ・既修得単位の認定状況に関する資料 ・実習委員会資料 	

4.5 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。

4.5①授業改善アンケートの結果を組織的に活用していますか。	はい
4.5②入学前アンケート及び卒業生アンケートの結果を組織的に活用していますか。	はい
4.5③学修成果可視化システム（Halo）を組織的に活用していますか。	はい
【具体的な活用事例】	
<ol style="list-style-type: none"> ① 教授会において、授業改善アンケートの実施を促すとともに、その結果を授業において活用していくこと並びにシラバスに執筆することを共有した。 ② 入学前アンケート結果及び卒業生アンケート結果を教授会において共有し、全教員で学部評価の把握に努めた。 ③ 執行部において、入学経路別の成績確認や海外指定校の継続検討に活用し、入試のあり方検討の参考とした。 	

基準5 学生の受け入れ

- 5.1 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施していること。

5.1①学位課程ごとに、アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を設定していますか。	はい
5.1②上記のアドミッション・ポリシーは、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法を志願者等に理解しやすく示していますか。	はい
5.1③アドミッション・ポリシーに沿い、適切な体制・仕組みを構築して入学者選抜を公平、公正に実施していますか。	はい
5.1④入学者選抜にあたり特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みを整備していますか。	はい
5.1⑤すべての志願者に対して分かりやすく情報提供していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・法政大学現代福祉学部パンフレット (URL: https://edu.career-tasu.jp/p/digital_pamph/frame.aspx?id=3942400-0-89&cs=1) ・法政大学現代福祉学部ホームページ アドミッション・ポリシー (URL: https://www.hosei.ac.jp/gendaifukushi/shokai/policy/admission/) ・法政大学現代福祉学部 入試制度 (URL: https://nyushi.hosei.ac.jp/nyushi/fukushi) ・法政大学ホームページ 受験上および修学上の配慮が必要な方へ (https://nyushi.hosei.ac.jp/application/files/9515/9615/4817/2021hairyoshinsei.pdf) ・教授会及び教務委員会資料 ・教授会議事録 	

5.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していること。

5.2①【2024年5月1日時点】学部・学科における入学定員充足率の5年平均と収容定員充足率は、下記の表1の数値の範囲内ですか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・教授会及び教務委員会資料 ・教授会議事録 	

表1

学部・学科における入学定員充足率の5年平均	0.90以上1.20未満
学部・学科における収容定員充足率	0.90以上1.20未満

基準6 教員・教員組織

6.1 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。

6.1①学部の教員組織の編制は、「人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）」、「求められる教員像及び教員組織の編成方針」に整合していますか。	はい
6.1②教員が担う責任は明確になっていますか。	はい
6.1③法令で必要とされる数は充足していますか。	はい
6.1④科目適合性を含め、学習成果の達成につながる教育や研究等の実施に適った教員構成となっていますか。	はい
6.1⑤各教員の担当授業科目、担当授業時間の適切な把握・管理をしていますか。	はい
6.1⑥教員は職員と役割分担し、それぞれの責任を明確にしながら協働・連携することで、組織的かつ効果的な教育研究活動を実現していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・教授会資料 ・教務委員会資料 ・現代福祉学部教授会内規 ・現代福祉学部出校案内 ・ウェルビーイング研究会のお知らせ 	

6.2 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っていること。

6.2①教員の募集、採用、昇任等に関わる明確な基準及び手続に沿い、公正性に配慮しながら人事を行っていますか。	はい
6.2②年齢構成に著しい偏りが生じないように人事を行っていますか。また、性別など教員の多様性に配慮していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・学部教授会内規 2-1 専任教員招聘規則 ・学部教授会内規 2-2～2-4 公募実施細則、兼任講師委嘱基準、特別招聘細則 ・学部教授会内規 3-1 専任教員の身分昇格 ・学部教授会内規 学部任期付教員招聘細則、教員の採用及び昇格の選考に関する内規 ・規程第 975 号 現代福祉学部助教に関する規程 	

基準 7 学生支援

7.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備し、適切に実施していること。

7.1①学生が能力に応じて自律的に学習を進められるようサポートする仕組みを整備していますか（補習教育、補充教育、学習に関わる相談等）。	はい
7.1②障がいのある学生や留学生の実態に応じ、それらの学生に対する修学支援を行っていますか。	はい
7.1③学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）に対し、その実態に応じて対応していますか。	はい
7.1④ I C T を利用した遠隔授業を行う場合にあっては、自宅等の個々の場所で学習する学生からの相談に対応するなどの学習支援を行っているか。また、学生の通信環境へ配慮した対応（授業動画の再視聴機会の確保等）を必要に応じて行っていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・履修相談会開催案内 ・履修相談会ラーニングサポーター及び担当教員への通知文書 ・留学生新入生ガイダンス（両学科共通） ・留級者ガイダンス（両学科共通） ・成績不振学生等への対応基準及び対応報告書 ・ソーシャルワーク実習委員会資料 ・オンライン授業実施場所の提供案内（現代福祉学部棟内掲示板） 	

基準 8 教育研究等環境

8.1 研究活動に関わる支援、条件整備を通じ、研究活動の促進を図っていること。また、健全な研究活動のために必要な措置を講じていること。

8.1①「法政大学研究倫理規程」に沿って、学生も含めて研究倫理の遵守を図る取り組みを行っていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・現代福祉学部 履修の手引き ・履修ガイダンス 事務課説明資料 ・現代福祉学部ホームページ (URL: https://www.hosei.ac.jp/gendai Fukushi/) 	

基準 9 社会連携・社会貢献

9.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。

9.1①「研究及び社会貢献に関する方針」のもと、学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取り組みを行っていますか。	はい
9.1②社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっていますか。	はい
【根拠資料】	

- ・法政大学現代福祉学部ホームページ (URL: <https://www.hosei.ac.jp/gendaifukushi/>)
- ・教授会資料
- ・教授会議事録

基準10 大学運営

部局による自己点検・評価は実施しない

上記の現状分析結果において、【いいえ】と回答した項目があった場合は、その理由と改善計画について記入してください。

大学基準	【いいえ】と回答した点検・評価項目を記述してください
基準を選択してください	
【いいえ】と回答した理由と、改善の必要がある場合、改善計画について記述してください。	

II 改善・向上の取り組み

1 2023年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2023年度大学評価結果総評】(参考)

現代福祉学部は、昨年度の中期目標設定初年度においてコロナ禍を経験しながらも、各評価項目・基準に関する達成指標への取り組みでは9項目中5項目で「S」評価とされ、全体的な質的保証を損ねることなく実施に至ることができた点は大いに評価できる。本年度の達成指標も昨年度提起された改善への提言に基づき設定されその実効性は大いに期待したい。特に、「教育課程・学習成果」では、高い専門性と福祉系、地域系、心理系の3領域を生かした総合的な学びの実現のための本年度達成指標において具体的な取り組み事項が明示されその意欲的な姿勢は特筆に値する。書面評価だけでなくインタビューの中でも明らかになったことであるが、ウェルビーイング研究会を開催し専任教員と兼任教員とのあいだでの意見交換をおこなっていたり、実習系の科目を持つ学科では実習委員会を通じて問題意識を共有したりするなど、継続的な意見交換の場を設けている点は大いに評価できる。また、学生へのモニタリング調査はその結果を元に改善策を検討し授業改善を行っているところがあるが、執行部レベルで具体的な事案について把握し改善対策を講じており、モニタリング調査からの結果を実際の改善につなげていることも大いに評価できる。

また、「学生の受け入れ」に関する現状把握と課題認識においては、各学科において受験前から異なる募集区分に関してそれぞれ求める受験者像が一貫して可視化され、その情報が「理念・目的」での今後の本学部の広報の改善への取り組みにも関連している点も大変高く評価でき、今後の附属校生への広報活動にも期待したい。総じて、本学部の社会のウェルビーイングの実現という教育理念の下、時代や社会の要請に対応するべく地域社会に学び貢献する高度職業人養成を念頭にさらなる達成指標実現に向けた真摯な取り組みに大いに期待したい。

【2023年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

福祉系、地域系、心理系の3領域を生かした総合的な学びの実現への取り組みや、学部教員間の情報共有をもとに、学部教育の質を維持する取り組みについて評価頂いた。今後も、Well-beingの実現に向けた多方面からの学びの提供を目指し、教員が横断的な視点と柔軟性を維持できるよう、継続して取り組んでいきたい。また、学生へのモニタリング調査から得られた実習教育への課題などをふまえ、社会福祉士及び精神保健福祉士養成教育課程において、実習検討委員会をすでに立ち上げ、検討が始まっている。心理領域においても、国家資格である公認心理師を取得するために必要な教育・実習の向上を目指している。このような現代福祉学部の教育を通して取得可能な資格、また地域への関わりを通じたフィールドワークは、本学部が提供できる独自のものとする。それゆえ、こうした学部の専門性と独自性を再確認し、本学部の魅力や特徴をわかりやすい形で、かつ積極的に学外に配信する手立てを考えていきたい。

現代の社会課題に対応可能な人材を育成するためには、本学部が有するような地域・福祉・心理の領域を融合した教育は必須と考える。現代社会のニーズに応えられる人材育成を目指し、さらなる努力を重ねていきたい

2 各基準の改善・向上

基準4 教育・学習

4.5 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。

4.5④アセスメントポリシー（学習成果を把握（測定）する方法）は、ディプロマ・ポリシーに明示した学生の学習成果を把握・評価できる指標や方法になっていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.5⑤アセスメントポリシーに基づき、定期的に学生の学習成果を把握・評価していますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

4.6 教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

4.6①学習成果の把握・評価の結果に基づいて、教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置に関する適切性の確認や見直しをしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.6②教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置に関する適切性の確認や見直しの基準、体制、方法、プロセス、周期等を明確にしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.6③教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置について、外部の視点や学生の意見を取り入れるなど、適切性の確認や見直しの客観性を高めるための工夫をしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	S（さらに改善した又は新たに取組んだ）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
外部の視点を取り入れた取り組みとして、1年生の基礎演習における基礎ゼミコンペにおいて、最終審査員として外部団体 NPO 法人 ETHIC に参画してもらい、最終審査を教員のみで行うのではなく、外部意見を取り入れながら審査し、授業の適切性を確保した。		

基準5 学生の受け入れ

5.3 学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

5.3①学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
--	--	----------------------

に把握していますか。	困難とする要因がある。	
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
5.3②点検・評価の結果を活用して、学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

基準6 教員・教員組織

6.3 教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。

6.3①学部内で教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につながる組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	S（さらに改善した又は新たに取組んだ）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
専任教員および兼任教員を含めたウェルビーイング研究会を3回実施した（2022年度は2回）。		
6.3②学部内で教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために、組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

III 2023年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	理念・目的
中期目標	現代福祉学部および福祉コミュニティ学科・臨床心理学科の教育理念について、外部に発信するとともに学部内の学生に対しての周知を深める。
年度目標	①2022年度に作成した新たな広報媒体の発信方法を検討し、実行する。 ②教員や学生の様々な活動やメッセージを学部ホームページ等オンラインメディアで頻度よく発信していく。 ③オンライン媒体を活用した広報に向けて、学生有志とともに戦略を練り直す。
達成指標	①2022年度に作成したパンフレットを広く配布する。 ②広報用動画を活用してオープンキャンパスや高大連携活動を通して広報活動を行う。 ③ホームページの充実に向けて、学生有志と検討する。 ④オープンキャンパスや高校説明会等も含め、学生有志の協力を得ながら、受験生目線の広報活動を行う。 ⑤広報のあり方について、1年生を対象として本学部に惹かれた点を調査・確認する。 ⑥同窓会とも連携し、広報活動を行う。
年	教授会執行部による点検・評価

度 末 報 告	自己評価	A
	理由	<p>①・②：オープンキャンパスと高大連携活動では、大幅改訂した学部パンフレットを広く配布し、さらに、限られた時間ではあるが、広報用動画を活用することができた。</p> <p>③：インフォーマルな形式で約20名（2年生と3年生）と広報手段とホームページのあり方について意見交換を行った。</p> <p>④：付属校での学部説明会、首都圏父母懇談会、オープンキャンパスでは在校生の協力を得て学部と学生生活を紹介した。</p> <p>⑤：1年生を対象とした調査については、大学が実施している入学前アンケートの結果を利用することとし、本年度は学部独自の調査を実施しなかった。</p> <p>⑥：定期的で開催している学部同窓会幹事会へ学部長と副主任が参加し、在校生と同窓会との連携について検討したが、同窓会と連携した学部の広報活動を実施するまでには至らなかった。</p> <p>達成指標⑥の一部は未達成であるが、他の指標は達成した。</p>
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	改訂された学部パンフレットや広報用動画を用いて、高大連携やオープンキャンパスなどで多面的に学部の理念を伝達していること、インフォーマルな形式ではあるが、在校生との意見交換の場を持ったことは高く評価できる。
	改善のための提言	学生たちが自分が所属している学部に誇りを感じ、出身校の後輩たちにアピールするような自主性や積極性を醸成する仕掛けを検討することが求められる。その際、本学部の教育理念である「ウェルビーイング」が実社会でどのように活かされているのかを確認することが大切であり、同窓会との連携を深めることが重要ではないだろうか。また、受験生が感ずる本学部の魅力については、継続して調査することが必要である。
評価基準	内部質保証	
中期目標	継続的な内部質保証を実現するためのPDCAサイクルを充実させる。	
年度目標	①質保証委員会と学部執行部による着実なPDCAサイクルを運用する。 ②非常勤講師も交えて、FD改善に向けた研究会の内容について検討する。	
達成指標	①質保証委員会による年度目標の推進・達成状況の確認を年度当初、春学期終了時、年度末の3回行う。 ②ウェルビーイング研究会を年2回以上開催し、そのうち1回は非常勤講師を交えてFD改善のための意見交換を行う。	
年 度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	<p>①：質保証委員会による年度目標の推進・達成状況の確認を3回行う予定であったが、春学期と秋学期の2回となった。</p> <p>②：ウェルビーイング研究会の開催を年2回以上としたが、3回開催することができ、うち1回は非常勤講師を交えてFD改善のための意見交換を行った。</p>
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	質保証委員会ならびにウェルビーイング研究会での意見交換会を定期的で開催していること、後者において非常勤講師も交えた会を1回実施したことは評価できる。
改善のための提言	質保証委員会を秋学期の冒頭に開催して、執行部と共に年度目標の達成状況を確認しあうことで、内部質保証をより高めることが期待される。	
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
中期目標	2021年度から実施された新しいカリキュラムにおける教育課程と教育内容についてモニタリングすることにより、その改善策について検討を進める。	
年度目標	①2021年度からスタートした新カリキュラムについて、モニタリングを行う。特に、	

	言語コミュニケーション科目やSW指定科目の再編に注目して調査する。 ②専門演習 IA・IB の選考方法の変更について検討し、今後の選考方法の在り方を検討する。	
達成指標	①新カリキュラムに合わせてカリキュラム・マップやツリーの適切性を確認する。 ②学生へのモニタリング調査を秋学期に実施し、明らかになった課題について、教務委員会および教授会懇談会において改善策を協議する。 ③専門演習 IA・IB の選考方法の改善に向け、教員の意見を聴取して、次年度以降の進め方を検討する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	①：カリキュラム・マップ、ツリー、ポリシー等の適切性を確認した。 ②：学生モニタリング調査を実施し、授業実態と学生生活に関して提出された課題の改善策を教務委員会で検討し、さらに教授会 FD 研修会を開催して協議した。 ③：専門演習 IA・IB の選考方法について教員の意見を聴取し、教務委員会と教授会での審議を経て選考方法を改善した。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	カリキュラムマップ・ツリー、ポリシーの確認、学生モニタリング調査結果の吟味、教授会 FD 研修会の開催、専門演習 IA・IB の選考方法の改善を行ったことは高く評価できる。
	改善のための提言	専門演習 IA・IB の選考方法については、試行段階にあるため、学生や教員へのモニタリング調査を継続する必要がある。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
中期目標	教育目標に即して、国際的な活動も視野に入れた専門領域横断的、かつ実践現場を体験できる教育プログラムについて検討を重ねる。	
年度目標	①実習、インターンシップの展開について、その実態把握を行う。 ②国際的な視点からの実践活動、研修活動の実現に関して検討する。	
達成指標	①実習、インターンシップにおける実施内容について教務委員会ならびに実習調整委員会において実態を把握する。 ②国際的な研修活動の実現に向け、プログラムの検討を行う。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	①：実習については教務委員会、実習調整委員会、また、報告会の開催と報告書の作成を通して実態と成果を把握した。また、インターンシップの成果については報告会の開催と報告書の作成を通して実態と成果を把握した。 ②：2年生から4年生までの総計34名を2団に分けて海外研修（スウェーデン）を行い、成果を確認した。また、これまでの海外研修とは別の研修が可能であるか、フィールドワーク委員会を中心として検討を始めた。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	実習、インターンシップにおける報告書の作成と報告会の開催の実態と成果を確認したこと、臨時的な措置とはいえ海外研修の実施方針を改善し、海外研修を4年振りに実施して成果を確認したことは高く評価できる。
	改善のための提言	海外研修のあり方と開催方法について、フィールドワーク委員会で継続して検討することが求められる。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
中期目標	高い専門性と3領域をいかした総合的な学びを通して身につけた教育成果について、学内外に積極的に公表していく。	
年度目標	①各実習についての報告書の作成と報告会を開催する。	

	<p>②4年間の学習成果である卒業論文の報告会についての開催を促す。</p> <p>③専門演習の学習成果として、積極的に学内外のコンペ、懸賞論文等に挑戦することを促す。</p> <p>④第2外国語（中国語、ドイツ語、フランス語、日本手話言語等）の学習成果を把握する。</p>	
達成指標	<p>①各実習の報告書と報告会開催について検証する。</p> <p>②卒業論文報告会の開催実態を調査する。</p> <p>③懸賞論文に学部内で5本以上投稿する。</p> <p>④学内外のコンペ等への参加状況を把握し、検証する。</p> <p>⑤各ゼミでの学習・活動報告会を開催する。</p> <p>⑥第2外国語（中国語、ドイツ語、フランス語、日本手話言語等）の学習成果や満足度等を、授業改善アンケートとモニタリング調査を通して把握する。</p> <p>⑦3領域（福祉、地域、臨床心理）横断的な教育のあり方を検討する。</p> <p>⑧他学科の科目履修の機会を増やすことについて検討する。</p>	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	<p>①：各実習の報告書を作成した。また、学外施設の実習指導者（社会福祉系）を招いた報告会を開催し、実習・教育効果を検証した。</p> <p>②：卒業論文報告会の開催実態を調査し、教授会で報告した。</p> <p>③：懸賞論文に学部内から6本の投稿があった。</p> <p>④：学内外のコンペ・社会貢献活動等への参加状況を把握し、教授会で報告した。</p> <p>⑤：各ゼミでの学習・活動報告会の実施状況を把握し、教授会で報告した。</p> <p>⑥：第2外国語（中国語、ドイツ語、フランス語、日本手話言語等）の学習成果や満足度等を授業改善アンケートと学生モニタリング調査を通して把握し、教授会FD研修会を開催した。</p> <p>⑦・⑧：3領域（福祉、地域、臨床心理）横断的な教育のあり方と他学科の科目履修の機会を増やすことについて、十分に検討することはできなかった。</p>
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	各実習の報告書、卒業論文報告会の開催実態、懸賞論文の投稿数、学内外のコンペ・社会貢献活動の参加状況、各ゼミでの学習・活動報告会、第2外国語の授業改善アンケートと学生モニタリング調査等、多面的に学習成果を把握していることは高く評価できる。
改善のための提言	左記の学習成果を、在校生や卒業生らに積極的に発信する風土を築いていくことが求められる。また、学科を超えた横断的な教育のあり方について、積極的に取り組むことが期待される。	
評価基準	学生の受け入れ	
中期目標	学部の教育理念に基づき、留学生も含めた多様な入試の在り方を充実させる。	
年度目標	<p>①留学生受け入れの動向や指定校推薦入試、グローバル体験入試、まちづくりチャレンジ入試（自己推薦）などの特別入試による入学生数と学習成果について検討する。</p> <p>②指定校推薦入試における指定校の適否について、出願状況、入学後の学習成績等に基づいて検討し、指定校を見直す。</p>	
達成指標	<p>①教務委員会において、各入試方法による入学生の確保と学習成果（GPA）の動向について検討協議し、教授会に報告する。</p> <p>②「まちづくりチャレンジ入試運営委員会」において、入学者の状況把握や入試広報についての検討を継続する。</p> <p>③各入試方法別の入学生とともに、効果的な広報手段について検討し、実行する。</p> <p>④指定校推薦の出願状況、入学者の学習成績等を用いて指定校の適否を判断し、見直す。</p> <p>⑤高大連携活動を中心として、付属校へ現代福祉学部の魅力、特長を伝える。</p>	

年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	①：教務委員会において、各入試方法による入学生の確保と学習成果（GPA）の動向について検討し、本年度の国内高校の指定校と次年度の指定校（日本語学校）と外国人留学生入試（前期）を変更した。 ②：「まちづくりチャレンジ入試運営委員会」において、入学者の状況把握や入試広報についての検討を継続し、さらに入試説明会を開催した。 ③：インフォーマルな形式で、一般入試と指定校推薦入試の入学者約20名（2年生と3年生）と広報手段とホームページのあり方について意見交換を行った。 ④指定校推薦の出願状況、入学者の学習成績等を用いて指定校の適否を判断し、見直した。 ⑤在校生の協力を得て、高大連携活動を中心として、付属校へ現代福祉学部の魅力、特長を伝えた。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	各入試方法による入学生の確保と学習成果の動向を把握し、必要な対策を講じていること、在校生との協働で優秀な入学生を確保するための検討と広報活動を行っていることは高く評価できる。
	改善のための提言	教務委員会を中心とした入試方法と入学生の学習成果の確認を継続するとともに、在校生との協働体制もより強めていくことが期待される。
	評価基準	教員・教員組織
	中期目標	将来的な発展も見据えて、学部の教育理念に即した適切な科目、教員配置、教員組織のあり方について検討を行う。
	年度目標	①本学部の中期的なビジョンのもと、本学部の専門性と学際性をいかした教員組織の方向性について検討する。
達成指標	①他大学の情報を収集整理し、本学部の強みと課題を整理する。 ②学部カリキュラム編成とのバランスを踏まえて、教員組織の将来像を取りまとめ、空席となっている教員枠を活用して必要な教員を確保する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	①：本学部の強み（少人数授業、学外実習の充実、基礎・専門演習を中心とするアクティブラーニング等）を確認した。他大学の情報を収集整理するまでには至らなかった。 ②：教員組織の将来像を取りまとめ、空席の教員枠を活用して教員を確保した（2024年4月着任予定）。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	本学部の強みを確認し、教員組織の将来像を取りまとめ、空席の教員枠を活用して新たな教員を確保したことは評価できる。
	改善のための提言	近年、本学部の教育理念である「ウェルビーイング」が社会全般で浸透してきており、他大学との差別化を図るために教員組織をどうすべきか検討することが求められている。そのため、他大学における近接領域の学部の教員組織などに関する情報を収集する必要があるだろう。
評価基準	学生支援	
中期目標	個々の学生の状況に応じて細やかな支援体制を維持するとともに、成績不振者への対応によって退学者を減らし、多様な学生へ目配りできるような支援を検討する。	
年度目標	①学生支援のなかでも、とりわけ低GPA学生に対する支援の仕組みを整える。 ②先輩学生が後輩の相談に対応するラーニングサポーター制度を活用し、年度当初に身近な相談の機会を充実させる。	

達成指標	①低 GPA の基準を引き上げて対象とする学生を拡大し、さらに春学期と秋学期に当該学生への面談を実施することにより、より丁寧な対策を講ずる。 ②ラーニングサポーターによる履修相談（相談件数と相談内容）の実績を整理し、次年度に向けた改善課題を検討する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	①：低 GPA の基準を従来通りとしたが、春学期と秋学期に当該学生への面談を実施した。 ②：ラーニングサポーターによる履修相談（相談件数と相談内容）の実績を整理し、次年度に向けて準備を行った。
	改善策	－
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	成績不振の学生への面談、ラーニングサポーターによる履修相談が丁寧に行われていることは評価できる。
	改善のための提言	成績が不振にならないように、基礎演習や専門演習を通じた教員と学生あるいは学生同士のコミュニケーションを深めるための細やかな配慮と対策を進めることが必要である。さらに成績不振から留年、退学に至る学生の早期発見・早期支援を行うため、過去のデータから支援対象を広げるなどの検討を行うことも期待される。
評価基準	社会連携・社会貢献	
中期目標	学生や教員における個人・グループでの社会貢献や社会連携についての現状把握に努めるとともに、それらの活動についての認識を深めることを通して今後の展開を促す。	
年度目標	①学生や教員、またゼミなどにおける社会貢献や社会連帯活動について実態を把握する。 ②それらの結果を学部内に対して発表し、共有することを通して、今後の活動の活性化を図る。	
達成指標	①ゼミや実習担当教員へのアンケートを実施し、アンケート結果をもとに、個々の活動を可視化して教務委員会および教授会で公開する。 ②優れた活動を学部内で共有した上で、学部広報を通じて発信していく。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	①：ゼミ担当教員へアンケートを実施し、個々の活動を可視化して教務委員会および教授会で公開した。 ②：教員、学生、ゼミ等の優れた活動を学部内で共有し、学部広報（学部ホームページ等）を通じて発信した。
	改善策	－
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	ゼミ担当教員へのアンケート調査結果を共有し、学部広報で発信していることは評価できる。
	改善のための提言	優れた活動に対して学部での表彰を行うなどの制度を検討することが期待される。また優れた活動を漏れなく把握するため、調査の対象や方法を広げる必要もあるであろう。
<p>【重点目標】 2022 年度に作成した新たな広報媒体の発信方法を検討し、実行する。</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022 年度に作成した新たなパンフレットを広く配布して、現代福祉学部の魅力と特長を広報する。 ・ホームページ、およびオープンキャンパスと高大連携活動等の中で動画を活用した広報活動を行う。 ・ホームページの充実に向けて、学生有志と検討する。 ・広報のあり方について、卒業生の意見を収集する。 		

【年度目標達成状況総括】

新たなパンフレットの配布と動画を活用して一般高校・付属校生へ現代福祉学部の魅力と特長を広報し、さらに広報の効果とより良いあり方について学生と意見交換を行うことができた。卒業生の意見の収集と整理には至らなかったが、達成目標とした施策を概ね実行できた。

IV 2024 年度中期目標・年度目標

評価基準	理念・目的
中期目標	現代福祉学部および福祉コミュニティ学科・臨床心理学科の教育理念について、外部に発信するとともに学部内の学生に対しての周知を深める。
年度目標	①教育理念のウェルビーイングの理念について、教員間で再確認したうえで、外部への発信方法について、検討を行う。 ②特に卒業生組織である同窓会との協議、在校生との協議を行い、新たな発信方法について戦略を練る。
達成指標	①25周年事業等の発信を同窓会と相談しつつ進める。 ②オープンキャンパスに関わる学生たちから、受験生の動向を把握する。 ③在校生から見た現代福祉学部の認識・印象について把握していく。
評価基準	内部質保証
中期目標	継続的な内部質保証を実現するためのPDCAサイクルを充実させる。
年度目標	①質保証委員会と学部執行部との着実なPDCAサイクルを実施していく。 ②SD,FD改善に向けて、教授会研修や研究会などを実施する。
達成指標	①質保証委員会の年3回の開催により、PDCAサイクルの運用を確認していく。 ②ウェルビーイング研究会を年2回以上開催する ③教授会において、FD研修、SD研修をそれぞれ実施する。
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	2021年度から実施された新しいカリキュラムにおける教育課程と教育内容についてモニタリングすることにより、その改善策について検討を進める。
年度目標	①専門演習IA,IBの選考時期を変更したため、学生や教員へのモニタリングを実施する。 ②社会福祉士・精神保健福祉士養成課程において、新カリキュラムが開始されて、2年目となっているため、その動向を把握する。
達成指標	①専門演習IA,IBの選考方法や時期について、教員へのアンケート調査の実施、学生へのヒアリング等を行い、教務委員会で検証する。 ②社会福祉実習および精神保健福祉実習を受け入れている外部組織の方々と懇談し、新カリキュラムの運営方法について協議する。 ③社会福祉士及び精神保健福祉士の実習体制を検討する。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	教育目標に即して、国際的な活動も視野に入れた専門領域横断的、かつ実践現場を体験できる教育プログラムについて検討を重ねる。
年度目標	①実習、インターンシップに参加した学生の把握、実習の効果を検証する。 ②国際領域における実習およびインターンシップの実現を検討する。
達成指標	①実習、インターンシップに参加した学生から状況を確認し、学部カリキュラムに国際的な視点を反映できる教育プログラムについて検討する。 ②国際的かつ専門的な活動を視野に入れたカリキュラムの検討を行う。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	高い専門性と3領域をいかした総合的な学びを通して身につけた教育成果について、学内外に積極的に公表していく。
年度目標	①各実習についての報告書の作成と報告会を開催する。 ②4年間の学習成果である卒業論文の報告会の開催状況について確認していく。 ③専門演習の学習成果として、積極的に学内外のコンペ、懸賞論文に挑戦することを促す。 ④第2言語の学習成果を把握していく。
達成指標	①各実習の報告書と報告会開催について検証する。

	<p>②卒業論文報告会の開催実態を調査する。</p> <p>③懸賞論文に学部内で5本投稿する。</p> <p>④学内外のコンペ等への参加状況を把握し、検証する。</p> <p>⑤各ゼミの学習・活動報告会を開催する。</p> <p>⑥3領域の横断的な教育の在り方を検討する。</p>
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	学部の教育理念に基づき、留学生も含めた多様な入試の在り方を充実させる。
年度目標	<p>①留学生受け入れの動向や指定校推薦入試、グローバル体験入試、まちづくりチャレンジ入試(自己推薦)などの特別入試による入学生数と学習成果について検討する。</p> <p>②編入学試験による入学生を確保するための方策を検討する。</p> <p>③指定校推薦入試における指定校の適否について、出願状況、入学後の学習成果等に基づいて検討し、指定校を見直していく。</p>
達成指標	<p>①教務委員会において、各入試方法による入学生の確保と学習成果(GPA)の動向について検討協議し、教授会に報告する。</p> <p>②編入学試験を経て入学してきた学生へのモニタリングを実施し、その内容を教務委員会で共有し、さらなる入学者確保に向けた方策を検討する。</p> <p>③指定校推薦の出願状況、入学者の学習成果等を用いて、指定校の適否を判断し、見直す。</p> <p>④高大連携活動を中心として、付属校へ現代福祉学部の魅力、特長を伝える。</p>
評価基準	教員・教員組織
中期目標	将来的な発展も見据えて、学部の教育理念に即した適切な科目、教員配置、教員組織のあり方について検討を行う。
年度目標	本学部の中期的なビジョンのもと、本学部の専門性と学際性をいかした教員組織の方向性について検討する。
達成指標	<p>①他大学の情報を収集整理し、本学部の強みと課題を整理する。</p> <p>②教務委員会で協議の上、教授会懇談会を開催し、学部カリキュラム編成とのバランスを踏まえて、教員組織の将来像をとりまとめる。</p>
評価基準	学生支援
中期目標	個々の学生の状況に応じて細やかな支援体制を維持するとともに、成績不振者への対応によって退学者を減らし、多様な学生へ目配りできるような支援を検討する。
年度目標	<p>①学生支援のなかでも、とりわけ低GPA学生に対する支援の仕組みを整える。</p> <p>②先輩学生が後輩の相談に対応するラーニングサポーター制度を活用し、年度当初に身近な相談の機会を充実させる。</p>
達成指標	<p>①低GPAの基準と対象とする学生を検討し、秋学期に加えて春学期にも当該学生への面談を実施することにより、適切な対策を講ずる。</p> <p>②ラーニングサポーターによる履修相談(相談件数と相談内容)の実績を整理し、次年度に向けた改善課題を検討する。</p>
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	学生や教員における個人・グループでの社会貢献や社会連携についての現状把握に努めるとともに、それらの活動についての認識を深めることを通して今後の展開を促す。
年度目標	<p>①学生や教員、またゼミなどにおける社会貢献や社会連帯活動について実態を把握する。</p> <p>②それらの結果を学部内に対して発表し、共有することを通して、今後の活動の活性化を図る。</p>
達成指標	<p>①ゼミや実習担当教員へのアンケートを実施する。アンケート結果をもとに、個々の活動を可視化して、教務委員会および教授会で公開する。</p> <p>②優れた活動を学部内で共有したうえで、学部広報を通じて発信していく。</p>
<p>【重点目標】 受験生に魅力ある学部情報を提供する媒体について検討する。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 ・新入生、編入生へのインタビューを行い、現代福祉学部の魅力を検証し、より良い広報活動を検証していく。</p>	

- ・ 同窓会からの意見を収集し、現代福祉学部の方向性について検討していく。